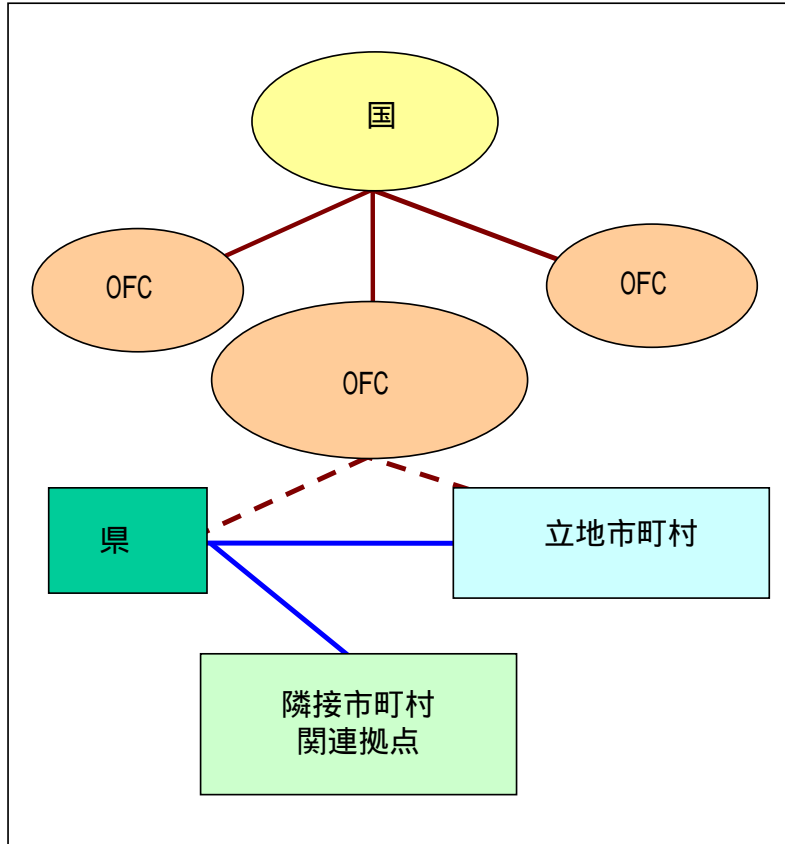


今後の重点施策について

< 統合原子力防災ネットワークの整備、設備の更新 >

平成17年10月27日

現状の原子力防災ネットワークについて



問題点

・ネットワークの不連続性

国と原子力防災センター(OFC; オフサイトセンター)のネットワークと、県を中心とする自治体のネットワークが未整理のため、相互の十分な情報共有が困難。

・通信回線容量の制約

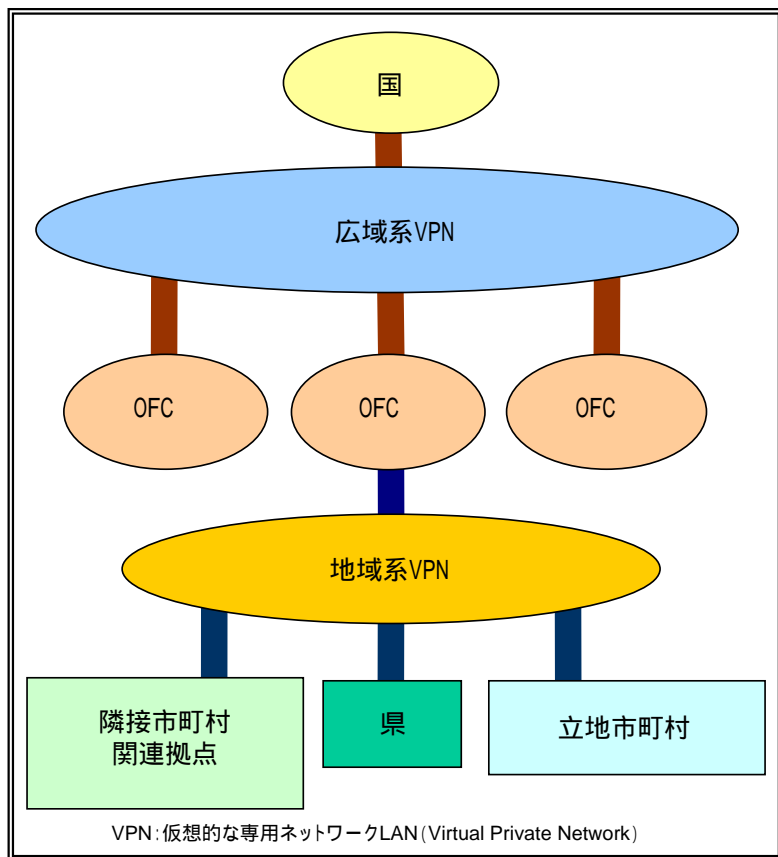
以下の支障が発生。

電話、FAXの混雑や通信の遅れ

TV会議映像の画像動作の遅れ、画質の低下

原子力防災センター(OFC; オフサイトセンター)と自治体間のパソコンによる情報の共有が不十分

統合原子力防災ネットワークの整備、設備の更新



目的

ネットワーク内の拠点間相互の自在な情報交換の実現
冗長性(リダンダンシー)の増大による信頼性の向上

通信回線の大容量化(現行の5～10倍程度)

・電話 混雑の解消

・FAX 送信速度・解像度の向上

・TV会議 映像の鮮明化、画面動作の円滑化

・パソコン 大量の画像や動画による情報交換の実現

システムのIP化による機能性・運用性の向上

文部科学省非常災害対策センター等は、平成19年末の文部科学省新庁舎移転に合わせて設備を更新予定